



414  
A1107

米倉會社

米倉會社條例市頒布ノ後太政官へ而伺察

米倉會社條例市頒布ノ後ニ付伺

米穀ノ後ハ從來負担ノ基礎ニシテ民生ノ命脈タル其言  
ヲ俟タス而シテ金融ノ源殖産ノ因亦之レカ運轉賣買  
ノ影響ヨリ由ラサルモ幾ント無之然ルニ地租石代納ル改正  
ヲ以テ農家ノ權利一タヒ主民ノ手ニ歸セシヨリ或ハ融通

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈



ノ途ニ迷ヒ却テ其苦情ヲ訴フモノ往々有之尤ニ徵租ノ  
成規ニ於テ米納又ハ預ル米等追々保護ノ盛意ニ有之  
後ニハ良得共到底人民自起ノ協同ニ基キ各自信從ノ便  
路ヲ得ルニ非サルヨリハ維持ノ方法之ヲ將來ニ期シ難キ才  
ニ可有之歟仍テハ尚流通便宜ノ目的ヲ洞知セシカニ各  
地從前庫入保存ノ慣習ニ批リ之ヲ歐米貸庫ノ制法ニ  
斟酌シテ別冊米倉會社條例編製其ニ付市頒布  
相成良揀致度尤ニ其通市裁下相成候ハ、右ニ相関  
シ良諸成規等ハ当省限可及市達ト存候奈市布告  
業相涉此段奉伺候也

市布告案

米倉會社條例別冊之通相定後條此旨市布告案

大正十一年四月  
大隈侯爵邸書院

米倉會社條例

米倉會社ハ首トレテ堅牢ノ倉庫ヲ準備シ農商各自ノ  
依頼ニ據テ其賣買米ヲ庫入保存シ且其石數ニ應レタ  
ル預リ証券ヲ交付シ以テ質入抵當又ハ賣買受換ノ便  
宜ヲ得セシムルヲ會社ノ本務トス而シテ其資本ノ流  
用ニ依リ現穀又ハ庫入証券ノ抵當ニ限リ質貸ノ金融  
或ハ其証券及ニ現石ニ於テ依批販賣等ノ業務ヲ兼行  
スル所ニシテ協同結社其業ヲ營マント欲スル者ノ目  
的制限並ニ創立出願ノ手續等ニ於テ其規則ヲ設クル  
モノ左ノ如シ

第一條

第一節 此條例ヲ遵奉シ米倉會社ヲ創立セント欲スル  
者ハ必ス大藏卿ノ許可ヲ受ク可シ而シテ大藏卿ハ其

創設ノ適否ヲ審察シ之ヲ許スト許サ、ルト又其都合ニ依テ之ヲ廢停スルノ權ヲ有ス可シ。

第二節 會社營業ノ年限ハ滿五ケ年ヲ以テ一期ト定メ其期ニ至リ尚永續ヲ望ムルハ其趣ヲ申立テ更ニ許可ヲ乞フ可シ。

第三節 會社營業ノ都合ニ依リ若シ其年限中ニ於テ一ケ年間以上ノ閉店或ハ之ヲ解散スルトアルハ是又其事由ヲ申立テ認可ヲ受グヘシ。

### 第二條

第一節 此條例ヲ遵奉シテ會社ヲ創立スルニハ資本金少クモ五万圓ニ下ラス又其發起人ハ七名以上タル可シ。

第二節 會社ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ一株百円ニ

下ラス且發起人ニテ其總高三分一以上ニ當ル株數ヲ所持ス可シ。

第三節 會社ハ其營業ノ確實ナルヲ表スル為メ資本金總高五分ノ一以上ヲ至五十分ノ一ニ當ル現金又ハ公債証書ヲ以テ官廳若クハ公立ノ銀行ニ預ケ之ヲ保証スベシ。

### 第三條

第一節 會社ノ發起人ニレテ其創立ヲ得ント欲スルニハ左ノ主旨ニ基キ創立証書并ニ會社定款及ヒ事務規程ヲ制定シ之ヲ創立ノ願書ニ添ヘテ地方官廳ニ差出ス可シ。

創立証書ハ會社ヲ創立スルニ付條例ノ旨趣ヲ遵奉シ株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或ハ無限ナルヲ明記シテ之ヲ表証スルモノナリ。

會社定款ハ結社ノ目的ヲ達スルニ付役員ノ職制及ヒ株主ノ権限等ヲ議定シテ互相確守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

事務規程ハ其社業ヲ實施スルニ付自他ノ間必ス遵守履行スヘキ規程ヲ明載スルモノナリ

第二節 地方官ニ於テハ願人共々身先行状差ニ之レカ創設ノ便否ヲ檢察シ尚其意見ヲ具レテ大藏卿ヘ申稟ス可シ

第三節 大藏卿ニ於テ會社ノ創立ヲ承認シタルキハ其創立証書及ヒ會社定款事務規程ニ印章ヲ鈐シ地方官ヲ經テ請願人ヘ達セシム可シ

第四條 發起人ニ於テ會社創立ノ許可ヲ受ケタルキハ

第一節 會社ニ於テ一定ノ成則ニ依リ發行スル所ノ預

計シ其資本ノ目的ニ於テ已ニ充分ナルヲ認メタルキ

ル証書ノ正寫ヲ願書ニ添ヘテ開業免狀ヲ請求スヘシ

第三節 會社已ニ開業免狀ヲ得タル上ハ總株主ノ集會ヲ催シ役員撰挙其他開店諸般ノ順序ニ從ヒ其商業ヲ經營スルヲ得ヘシ而シテ右役員ノ上任及ヒ開業ノ時日ハ管廳及ヒ世上ニ廣告スヘシ

第五條

第一節 會社ニ於テ一定ノ成則ニ依リ發行スル所ノ預

計シ其資本ノ目的ニ於テ已ニ充分ナルヲ認メタルキ

ル証書ノ正寫ヲ願書ニ添ヘテ開業免狀ヲ請求スヘシ

品ノ管保ニ於テハ天災其他カ<sup>此</sup>抗ス可カラサル損害ヲ除ノ外會社其責ニ任スヘシ

第二節 會社ノ預リ証書ヲ以テ之ヲ交通受授スレハ都テ會社ニ定メタル法式ニ從ヒ其手續ヲ經タル以上証書ノ持主ハ即チ所有權利ノ轉移ヲ証シ又ハ質貸ノ特權ヲ有ス可シ

第三節 會社ノ預リ証書ニ於テ其庫出シノ期限差支ハサル迄ハ之ヲ流通轉賣スル等專ラ所有者ノ權利ニ任可シト雖モ其間ニ於テ証書ノ持主ハ會社一定ノ成規ヲ遵守ス可キモノト看做スヘシ

第六條

第一節 會社ハ其庫入ノ証書ニ對シ他ノ債主ト都合ニ依テ相當ノ割引或ハ其手数料ヲ以テ之ヲ引受ケ代償

スル等ノ一ニ任ス可シ

第二節 會社ハ其資本ノ融通ニ依リ現款又ハ庫入証書ノ抵當ヲ以テ質貸ノ業ヲ兼ヌルコトアルヘシ

第三節 會社ハ抵當流レ品或ハ依託販賣等ノ時宜ニ依リ競賣場ヲ開クコトヲ得ヘシ

第七條

第一節 會社ニ於テ預リ倉入ノ期限ハ依頼スルトハ示談ニ依リ延縮アル可シト雖モ預リ一期三ヶ月ヨリ少ナカラズ又六ヶ月ヨリ長カラサルヲ以テ定例ト為ス可シ

第二節 會社其預リ米穀ニ對シ証書ヲ交付スルニ當テ受收ス可キ手数料ハ多クモ其元價高十分ノ五ニ過キサルヘシトモ証書ノ分割又ハ延期及ヒ其他書入料等

ハ此限ニ非ナル可シ

第三節 會社貸貸ノ利息及ニ依託販賣ノ口銭等ハ各地其慣法ヲ異ニス可シトモ凡ソ其輕キニ從フヲ要ス可シ

第八條

第一節 會社ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ為シ其損益ハ株數ニ割合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ而シテ其純益金一ケ年一割以上ノ分配ニ當ルハ其以上ノ幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ非常ノ準備金ト為スヘシ

第二節 會社ノ役員ハ右決算ノ都度簡明表ヲ製シ株主ニ分賦ノ日ヨリ五日以内其管廳ヲ經テ大藏省ニ届出テ且世上ニ公告スヘシ

第三節 會社ハ又毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル報

言表ヲ製シ翌月五日以内該地ヲ差立テ大藏省ニ送ス可シ

第九條

第一節 此會社ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ム可シ

第二節 會社ノ証書類及ヒ諸帳簿ハ都テ印稅規則ニ從ヒ印紙ヲ貼付スヘシ

第三節 會社ノ創立証書及ヒ會社定款事務程規ノ本書ハ必ス証券界紙ヲ用フ可シ

第十條

第一節 會社營業ノ模様ニ依テ不時其檢査ヲ要スルカ又ハ株主五分一以上ノ請願ニ由リ官算ヲ流出シ諸帳簿其他ヲ點檢セシムルコトアル可シ是等ノ場合ニ當リ

若シ疑問ノ事アルキハ当務ノ役員逐一答辨ノ責ニ任  
ス可シ

第二節 會社ノ株主ハ一ヶ年一度以上定任ノ外別ニ檢  
算掛リノ委員ヲ命シ金穀出納ノ帳簿及ヒ諸計算ノ正  
否等ヲ監査セシムルヲ要ス可シ

第三節 會社ノ役員ハ其營業ノ時間中何時ニモ株主  
ノ要求ニ依リ諸帳簿等ノ覽閱ヲ拒ムルヲ得ナレ可シ

第十一條

第一節 會社ノ役員及ヒ株主ニ於テ其責任ヲ怠ルカ又  
ハ其權限ヲ冒スカ其他不信不實ノ所業アル者ハ會社  
限リ衆議ヲ以テ過怠金ヲ賦シ又其事柄ニ依リ之ヲ除  
名退社シ或ハ其株金等ヲ沒收スルヲ得ヘシ

第二節 會社ノ<sup>役員</sup>總員若シ<sup>株主</sup>此條例ノ旨趣ニ悖ルカ或ハ之

ヲ犯ス者アルキハ其事ノ輕重ニ依リ三十拾円以上三百  
円以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第三節 會社人員ノ内外ヲ問ハス其証書ヲ模擬スル<sup>ル</sup>ハ

勿論會社ニ於テ若シ預リ不穀ヨリ過數ノ類券ヲ發行  
スル<sup>ハ</sup>贋造ヲ以テ之ヲ論シ皆國法ニ從<sup>ヒ</sup>之ヲ處罰

ス可シ

右之通相定候事

米倉會社成規

創立證書書例

米倉會社創立證書

明治 年 月 太政官第 号ヲ以テ頒布サレタル米倉  
會社條例ノ旨趣ニ基キ之ヲ創立シテ其商業ヲ經營セン  
ト謀リ此證書第六條ニ連名シタル者協議シテ左ノ條々  
ヲ取極メ候也

第一條

當會社ノ總員ハ米倉會社條例ノ旨趣ヲ遵奉シ保セテ此  
證書及ヒ會社定款事務規程ノ條件ヲ遵守ス可シ

第二條

當會社ノ名号ハ何々國名郡名又ハ所在地名等米倉會社ト稱ス可シ

第三條



當會社ノ本店ハ 縣下郡 番地ニ取建可シ  
 但營業ノ都合ニ依リ支店ハ社ヲ設置スルガハ其都  
 度官廳へ届出可シ

第四條

當會社ノ目的ハ九ノ農商各自ノ賣買米ヲ預リ且其石高  
 ニ應ジタル預リ証券ヲ交付シテ之レカ保管讓典ノ便益  
 ヲ得セシムルヲ以テ營業ノ本務トシ而シテ資本ノ都  
 合ニ依リ現敷又ハ預リ証券ノ望ニ依リ抵当ニ限リ貸貸  
 ノ金融或ハ依託取賣等ノ事ヲ取扱フ可シ

第五條

當會社營業ノ年限ハ開店ノ日ヨリ滿五ヶ年ト定ムヘシ

第六條

當會社ノ資本金ハ 萬圓ト定ム之ヲ 百株トナシ其内

發起人ニテ所持スヘキ株數共ニ其屬籍住所姓名等左ノ  
 表ノ如シ

株數	屬籍	住所	姓名
合株數 此金 萬圓			總計幾人

第十條

當會社ノ營業ハ其確實ナルトヲ表正スル為メ資本總高  
 五分(或)一以上ニ當ル即チ 萬 千圓ヲ以テ官廳(又ハ何  
銀行)へ  
 預ケ置クヘシ

第八條

當會社ノ株主ハ其責任ヲ無限(或ハ保  
証有限)ト定ムヘシ故ニ若シ  
 會社ノ鎖店又ハ非常ノ損害ヲ受ケタル場合ニ際シテハ  
 其負債及ヒ右ニ關シタル入費ヲ株高ニ割合シ(保証有限トシ  
現在所持ノ株

高幾倍也

ヲ負擔シ更ニ出金弁償スヘシ

右取極ノタル証據トシテ各姓名ヲ自記シ調印致交追テ加入候者ハ順次連署セシメ可申候也

年号月日

發起株主連名印

會社定款書例

會社定款

明治 年 月 太政官第

号公布米倉會社條例ノ旨趣

ヲ遵奉レ

府

下ニ於テ之ヲ創立シ株主一同ノ利益ヲ謀

ラシカ為メ議定決行スル所ノ條件左ノ如シ

第一條

當會社ハ創立証書ニ於テ掲載シタル營業ノ目的ヲ達ス

ル所ニシテ其事務制限ハ此定款ニ事務規程ニ從ヒ

之ヲ頭取取締役ニ委任ス可シ

頭取ヲ締役ハ專ラ社則ヲ履行シ以テ社業ヲ擴張セシム

ルハ勿論一切ノ社務ヲ總理スルニ於テ其責ニ任ス可

シ

然レ共新ニ一事ヲ興シ又ハ既定ノ規則ヲ更正廢止シ又

ニ定例ナキ出納其他重大ノ事件ハ株主總會ノ決議ヲ  
經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得サル可シ

第二條

當會社ノ取締役ハ幾名ト定メ投票ヲ以テ現ニ十株以上  
ヲ所持シタル株主ノ内ヨリ撰挙スヘシ而シテ其内幾  
名ハ創立ノ地ニ一ケ年間以上在住シタル者ニ限ル可  
シ

右撰挙ニ應ジレ取締役ハ衆議ヲ以テ其同僚中ヨリ頭  
取一名副頭取〔若シアラハ〕ヲ推任ス可シ

頭取々締役上任ノ節ハ其所持ノ株式ニ於テ十株文ケノ  
券状ヲ會社ニ差出シ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附  
シタル保護預リ証書ヲ請取置テ奉職中其株券ヲ引出  
スヲ得サル可シ

第三條

頭取在職ノ期限ハ一ケ年又取締役ハ二ケ年間ト定メ毎  
年初度ノ定式集會日〔又ハ〕ニ於テ其人員ノ半ヲ新任シ  
順次旧員ト交代セシムヘシ故ニ初年奉職シタル人員  
ノ半ハ一ケ年又其殘員ハ二ケ年間在職ス可シ但衆望  
ニ依テ重年スルハ此限ニアラス

頭取々締役ノ給料ハ株主ノ衆議ニ於テ取極メ其以下ノ  
役員ハ頭取々締役ニテ差シ定メ之ヲ給與スヘシ

右役員ノ内不時ノ欠員アルキハ他ノ頭取々締役ニテ之  
ヲ兼攝スルカ又其代任ヲ命スルカ事務ノ都合ニ任ス  
可シ但此代任ノ在職ハ次回撰挙ノ期限ヲ踰ヘザル

頭取々締役ハ會社ノ事務ヲ取扱フ為メニ支配人若ニ書

記方出納方其他要用トスル諸役員ヲ撰任スルヲ得  
可レ但是其ノ役員ハ必ス社中ノ人算ニ限ルニ非ス社  
外ヨリ之ヲ雇仕スルヲアルヘシ

右社外人算ヲ任用スルニハ頭取々締役ニテ其者ノ身元  
引受人ヲ約束シ或ハ其保証金ヲ取置ク事ヲ要ス可シ

第四條

頭取ハ會社一般ノ事務ヲ總轄シ自ラ適任ノ職務ヲ執行  
スルニ任ズ他ノ役員ヲ指揮シテ其職任ヲ盡サシ  
ムルノ責ニ任スヘシ

頭取ハ取締役分掌ノ課程ヲ制定シ且其各掛リヲ取極メ  
又取締役ノ集議ニ臨ンテハ常ニ議長トナリ其議事ヲ  
判決スルノ任ニ當ル可シ

頭取ハ株主決議ノ旨趣ニ從ヒ株金收入ノ手續ヲ取極メ

之ヲ株主ニ傳達シ或ハ之ヲ督促シテ若シ其期約ヲ違  
フモノアルキハ定例ニ照シ其利ヲ没収スルノ權アル  
可シ

副頭取ハ頭取欠席ノ時其事務ヲ代理スルノ外常ニ取締  
役ノ職任ヲ有スルモノト首做スヘシ

第五條

取締役ハ會社金穀ノ出納ヲ管理シ又之ノ施設上ニ以  
テ其順序ヲ立テ且營業ノ得失利害ヲ考量シ之レカ議  
案ヲ草シテ頭取ニ申陳シ或ハ株主ノ集議ヲ取ラント  
要スルキハ臨時之ヲ招集スル等ノ事ヲ掌ル可シ

取締役ハ支配人以下諸役員ノ職掌ヲ分課シ又其權限手  
期給料等ヲ取極メ且其勤怠ヲ監視シ頭取ノ裁決ヲ經  
テ之ヲ進退黜陟スルノ權アルヘシ

取締役ハ頭取又ハ其同僚中ニ於テ職任不相当ノ行アル  
ル事ヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ臨時委員ヲ命シテ其  
是非ヲ討議セシメ尚次回集會ノ節無名投票ノ法ニ依  
リ三分ニ以上ノ説ニ從テ之ヲ決行ス

第六條

取締役ハ毎月 日ヲ以テ集會日ト定メ營業及ヒ諸計策  
ノ得失ヲ討論シ豫テ事務ノ精良且ツ社業ノ擴張ヲ辦  
任スヘシ但此集會ニ於テハ株主ノ **臨**ニ依リ何時ニテ  
モ其傍聽ヲ許スヘシ  
取締役定式ノ集會ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一説ト定  
メ衆説ヲ取りテ議事ノ決定ト爲スヘシ若シ可否ノ數  
相半スルキハ議長ノ判決ニ任ス可シ

取締役ノ集議ニ於テ決定シタル事件ハ會社ノ議定録ニ  
登記シ之レニ議長ノ決印ヲ捺シテ后日ノ **参** 証 拠ニ  
供スヘシ

第七條

株主ハ會社資本ノ一部ヲ入金シ且其高ニ應シタル株券  
ヲ所シ **其** 付レノ屬族何レノ職務アルニ拘ラス **其** 株  
數相当ノ權利ヲ有レ又營業上ノ損立、其株高ニ應  
テ之ヲ負担スヘシ  
會社ノ株券ヲ若シ數人ニテ所有シ組合株主トナルキハ  
此數人ノ中一人ニテ右一株ノ權利責任ヲ負担スルコ  
トヲ得ヘシ

株主ハ會社營業ノ実況ニ看自シ其時間中ニ於テ金穀及  
ヒ出納帳簿ノ覽閱ヲ要求レ又總會議事ノ時ニ臨テハ

身自ラ登言投票ノ権ヲ有スルノミナラス他株主ノ代  
任ヲ受<sup>ケ其權利ヲ無標ニ得</sup>レ

第八條

株主ハ其株式ニ付未タ納メタル所ノ金負ヲ徴收セラル  
ルニ當リ頭取ノ告示タル金高及ヒ時日ヲ誤ル可カ  
ラス但頭取ヨリ徴金ノ報告ヲナスハ少クヒ十五日間  
以前ニ於テ之ヲ通達スヘシ

株主若シ徴金ノ期日ニ至リ其納金ヲ怠ルキハ更ニ又相  
當ノ時日ヲ刻シ期限後ノ利子差ニ雜費ヲ加ヘテ其金  
高ヲ納メシムルノ報告ヲナスヘシ而シテ尚其再期ヲ  
怠リ納金セザルモノハ頭取ノ意見ヲ以テ其株式ヲ役  
收スルコトアル可シ

株主其所持ノ株式ヲ没收セラル、場合ニ當リ其没收以

前ニ納ムヘキ徴金ハ没收後ト虽モ尚其責ヲ免カレサ  
ル可シ

會社ニ於テ没收シタル株式ハ競賣又ハ其他ノ方法ニ依  
リ之ヲ他ノ株主ニテ引受ルカ又新ニ買取り入社スル  
モノアルカ必ス三ヶ月以内其跡株主ヲ定ム可シ

第九條

株主所持ノ株式ニ付テ當時納ム可キ金<sup>ノ</sup>外其責任ノ  
總高又ハ其内ノ若干ヲ前納セント欲スルモノハ頭取  
ノ兼諾ニ依リ會社ヨリ相當ノ利息ヲ請取ルコトヲ得可  
シ

株主ハ其株式ニ因テ得ル所ノ分配金ヲ積金トナシ之ヲ  
會社ニ貯蓄スルコトヲ得レシ但此積金ノ持主ハ其高ニ  
應シテ會社ノ損益ヲ負担レ且分割株式ノ金額ニ充ル

其ハ發言其他所持株同事ノ權利ヲ有ス可シ  
右積金ノ持主ハ別表ノ証書ヲ請取置キ其利益ノ全部或  
ハ若干分ヲ他人ニ讓渡スルハ恰モ會社資本ノ株式ヲ受  
授スルノ手續ニ準拠シ之レカ權利ヲ分付スルヲ得  
ヘシ

第十條

株主ハ何事ノ事故アルモ會社解散ノ期ニ至ラサル時  
ハ其積金ヲ引取ルヲ許サス但取締役等ノ承認ヲ經テ  
其所持ノ株式ヲ賣買讓與シ又ハ質入抵當トナスハ政  
限ニ非カサルヘシ

株主其所持ノ株式ヲ賣買受授セント欲スルモハ双方連  
印ノ証書ヲ以テ之ヲ取締役ニ立其材料主帳ヲ書改メ  
マシフヘシ若シ右ノ手續ヲササステ之ヲ受授レタ

ルモノハ會社ニ於テ其初キモノト者做ス可シ  
株主若シ所持ノ株式ヲ質入抵當トシタル時間中ハ其  
損益金分賦ヲ余額ノ外部テ株主ノ權利ヲ失レ且取締  
役等ノ撰挙ニ應スルヲ得サル可シ  
株主ノ内死去或ハ分散ニ依リ其株式ヲ讓リ受クヘキ人  
人ニハ取締役等ノ要用ニスル証書ヲ差出サレメタル  
上之ヲ株主トシテ株主帳ヲ書改ム可シ  
會社ニ於テ毎年ノ定式集會前半月ハ株式ノ賣買受授  
ヲ停止シ株主帳ノ書改メヲササ、ル可シ

第十一條

株主ニ於テ若シ其株式ヲ破損或ハ紛失セシキハ速ニ之  
ヨ會社ニ届出シ可シ而シテ破損ナレハ直ニ書替ヘ相  
渡シ又紛失ナレハ新聞紙其他ノ方法ニ依リ三ヶ月間

以上之ヲ世上ニ公告シ尙尅見セタルキハ請人連印ノ  
証書ヲ取り其前キヲ付與スヘシ

第十二條

當會社ノ株主ハ毎年 月 日ヲ以テ定式總會ノ日ト極  
メ諸計算ノ讀上ケ且損益分賦等ノ事ヲ執行ス可シ其  
他取取締役等ノ緊要トスルカ又ハ總株數五分一以上  
ニ當ル株主ノ請求ニ依テ臨時集會ヲ開クトアル可シ  
凡ソ臨時 集會ヲ開クニ當テハ其議事ノ要旨ト場所時  
日ヲ少クモ十日以前ニ之ヲ通知スヘシ而シテ其期日  
ニ至リ定刻一時間以上ヲ過キテ若レ出頭ノ總負其半  
ニ滿タルハ其議事ヲ延引レ更ニ後日ヲ刻ス可シ但  
急遽ノ事件ハ此限ニ非ス

總株數五分一以上ニ當ル株主ニ於テ臨時集會ヲ開カニ

ト欲スルキハ其議事ノ大意ヲ取締役ニ陳ヘ招集ノ取  
扱ヒヲ請求スヘシ若レ取締役等ニ於テ十日間以上其  
手續ヲ怠ルキハ請求人自ラ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第十三條

株主ハ總會議事ノ時ニ當リ其所持株十箇迄ハ一株ニ付  
毎事一説ヲ登スルノ權アリトス又十一株以上百株迄  
ハ五株毎ニ一説百一株以上八十株毎ニ一説宛ヲ加算  
スヘシ  
株主ノ總會ニ當テ會社ノ役員ハ可否ノ登言ヲナス可カ  
ラス若シ登言スルトアルモ之ヲ數中ニ算入セサルヘ  
シ

總會ノ議長ハ預取任ニ充ルカ又ハ臨時株主中ヨリ撰  
任スルトアル可シ而シテ議長ハ其議事ニ臨ミ株主五



名以上ニテ投票ヲ乞フニ非サレハ別ニ發言可否ノ多  
少ヲ算スルニ及ハス甘議ヲ判決スヘシ  
右ノ場合ニ當リ若シ五名以上ノ株主ニテ投票ヲ望ムハハ議  
長ノ指揮ニ從テ之ヲ行ヒ其説ノ多数ヲ以テ議事ノ決  
定ト首做スヘシ又可否ノ發言相半スルキハ議長之ヲ  
断決スルノ權アル可シ  
株主ハ集會ノ報告ニ當リテ自ら出頭シ得サルキハ他ノ  
株主ニ委任シテ發言スルノ權アリトス故ニ若シ其代仕  
ヲ出カスルニ決意シ決定ノ事件ニ於テ何分ノ異議ア  
ルモ之ヲ採用セサル可シ

第十四條

定式又ハ臨時ノ集會ニ於テ定款並ニ事務規程ヲ更正神  
除スル等ハ勿論其他會社一般ニ關係セシ條件ヲ決議

シタルヤハ之ヲ明細ニ記シテ官廳ニ申告シ且其事柄  
ニ依リ許可ヲ得テ后ニ之ヲ施行スヘシ

第十五條

會社營業ノ都合ニ依リ資本金額ヲ増加シ又ハ減少  
（増減ノ限ラ  
ルマテ）セント欲スルキハ株主ノ衆議ヲ以テ之ヲ決定シ  
官廳ノ許可ヲ乞フヘシ但右許可ヲ得テ之ヲ施行スル  
ノ方法ハ其時ニ臨ミ更ニ株主ノ議定ヲ要スヘシ  
會社ハ社名ヲ以テ他ノ借財ヲナスラ許サズ社外人ノ  
預リ金ヲ為ス可カラズ但資本ノ流用ニ依リ差支ル  
アレハ株主ノ衆議ヲ以テ其株高ニ分賦シ一時之ヲ出  
金スルヲアルヘシ  
會社若シ不慮ノ災害ニ罹ルカ其他止ヲ得サルノ事故ニ  
依リ株主ニ於テ一時ノ出金ニ屬スルモノハ其株金ト

異ナルヲ以テ會社ノ役員ハ速ニ之ヲ返弁スルノ手續  
ニ從フヘシ

第十六條

會社ノ事務ハ現穀及ヒ會社ヨリ發行シタル預リ証書ノ  
取扱ニ止リ其他ノ物件ニ向ツテ貸與金又ハ依託販  
賣等ノ承諾ヲ為スラ許サス但營業押店ノ時同ノ見手  
數類キ於此社則キ通用トスル限ニテハ妨ヒナレド可シ  
預リ証書人ハ現穀ノ抵當ニ對シ會社ヨリ貸與スル所ノ  
金額ハ一口ニ付資本總高十分ノ一ヲ以テ限リトナス  
ヘシ

會社ノ取締役等ハ常ニ資本ノ流用高及ヒ保險ノ金額ヲ  
是規キ見合セ其制限ノ超過ヒレドハ要ス可シ  
第十七條

會社營業ノ總決算ハ一月ヨリ六月ニ至リ又七月ヨリ十

二月ニ至リテ毎半年度ト定メテ會計其他現收利益金  
ノ内納稅(アレ)差ニ一切ノ社費ヲ刊去リ残り損益高ハ株

數ニ割合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ  
利益金ノ分配ニ於テ若シ一ヶ年一割以上ノ利息ニ當ル

キハゴソ以上ノ幾分ヲ以テ會社ニ積立テ非常ノ準備ト  
ナシ又其幾分ヲ現在役員ノ別段賞與金ニ充テ残り高

ヲ以テ即チ株數ニ割賦スヘシ  
會社若シ損失アリテ資本金ノ現額ヲ欠クノアルキハ取

締後等ヨリ其事實ヲ株主一同ニ報告シ其後ニ生スル  
所ノ利益ハ其不足高ヲ補ヒ得ル迄ノ間配當ヲ差止ム  
可シ

積立準備金ハ會社非常ノ災害ヲ受クルヲ其他株主ノ議

定ニ依テ適當トスルニ非カレハ之ヲ使用ス可クテス  
但時宜ニ依テ取締役等ノ協議ヲ以テ公債証券ニ替ヘ  
置クコトヲ得ヘシ

第十八條

會社ニ於テ非常ノ損失アルカ又ハ利益ノ社費ヲ償ハカ  
ルカ或ハ株主ノ七名以下ニ減少セシカ其他總株主三  
分ニ以上ノ決議ニ依テハ期限未滿ト雖モ閉店又ハ解  
社スルコトヲ得可シ

株主ニ於テ閉店又ハ解社ヲ決定シタルキハ速ニ其事由  
ヲ詳記シテ官廳ニ上申シ又之ヲ三ヶ月間以上世上ニ  
公告シ社外ニ連帶シタル殘務ハ勿論共有物(事件等)  
所分等ニ於テ更ニ違亂無キ精算表ヲ製シ株主一同ノ  
調印ヲ以テ免狀ノ返納ヲ為スヘシ

會社已ニ右ノ手續ヲ終タル以上其損益ハ共ニ總株高ニ  
分賦シ以テ結社ノ約束ヲ解散スルコト雖モ若シ其營  
業中ノ事件ニ関シテ公裁ノ事起ルカ或ハ違算ノ件ア  
リテ會社之ヲ償弁セサルヲ得ル場合ニ至テハ元株  
主尚其株高ニ應レ右ニ関シタル雜費ヲモ併セテ之ヲ  
負担スルノ責ヲ免カレサル可シ

第十九條

會社年度ノ計算及ヒ營業實際ノ報告等凡ソ其定規アル  
ハ勿論其他官廳ノ命令ニ從ヒ諸申告ノ時期ヲ誤ルコ  
トナカル可シ  
會社ヨリ社算ニ對シタル諸報告ハ直ニ之ヲ達スルカ又  
郵便ニ托スルコトアリ得ルハ但郵便ニ托スルヤハ平常  
程度ノ時間ヲ以テ其地ニ送達シタルモノトナス可シ

数名組合ニテ一株ヲ所持スル者ニ報告ヲ為スハ株主帳ニ記名シタル等類ニ宛ニテ之ヲ送達シ以テ其株ノ持主總体ニ通知シタルモノト首做ス可シ

第二十條

會社ノ營業上ニ於テ官廳ヨリノ検査ハ勿論其模様ニ從ヒ株主ハ五分一以上ノ協議ヲ以テ臨時検査ヲ請願スルコトアルヘシ

會社ハ少クモ一年一度以上株主ノ衆議ヲ以テ定算ノ外不時ニ檢算掛ヲ命シ諸帳簿及ヒ諸計算ノ正否等ヲ查止セシムヘシ但此場合ニ於テ違算其他ノ不都合アルモノ其事ノ輕重ニ依リ當任ハ勿論連帶ノ後負モ亦過急弁償ノ責ニ免カレハル可シ

右検査查定ノ場合ニ當テ會社ノ役員ハ需用ノ書冊ヲ差

出シ又其疑問ニ答弁スル等ノ責ニ任スヘシ

第二十一條

會社ノ役員ニシテ若シ其制限ヲ犯スカ又ハ其職務上本調理ヨリシテ他人若クハ會社ノ損害ヲ引起スコトアルモノハ其弁償過急ノ責ニ於テ各負自ラ之ヲ負担ス可シ會社ノ總負ニ於テ社中ノ諸規則ニ背戾スルカ又會社ニ對シ不信不實ノ所業ヲナシモアルキハ取締役員ハ株主ノ衆議ヲ以テ其輕重ニ從ヒ相當ノ過急金ヲ賦シ又之ヲ退社除名シ又其株金身元金ヲ没収スル事且其事柄ニ依リ公裁ヲ仰クモノトスヘシ

右ノ條々ヲ取極タル証書トシテ各姓名ヲ記シ調印致シ候也

年号月日  
株主姓名印

事務規程書例

米倉會社事務規程

會社營業ノ目的ヲ達センカ為ノ其事務上尙緊要ノ  
條件ニ付テ自他ノ間互ニ確守スヘキ規程ヲ設クル  
モノトス知シ

第一條

當會社ニ於テ受預スル處ノ米穀ハ少クモ拾石以上タル  
可シ而シテ其石入ハ依豫リニミテ端米ヲ用フルヲ許サ  
ルヘシ

第二條

當會社ヨリ其庫入預リ米ニ對シテ交付スヘキ証券ハ拾  
石以上ノ分數ニ依リ幾紙トナスモ預ケ主ノ望ニ任スヘ

第三條

當會社ノ預リ証券ニ於テハ必ス定規ノ印紙ヲ貼附シ又  
所有主ノ記名及ヒ發行ノ番号ヲキモテ無効ノモ  
ト者做スヘシ

第四條

當會社ニ預ケ米ヲ為シ其証券ニ付シテ欲スル者ハ  
左ニ定ル處ニ依テ準シテ會社附属ノ蔵所ニ運輸スヘ  
シ

例ハ拾石ノ預ケ米ニハ

五斗俵十レハ

貳拾俵

四斗俵十レハ

貳拾五俵

三斗俵十レハ

三拾俵

右以上ノ石數及ヒ雜穀モ之レニ準スヘシ但其米俵  
ニ於テハ立繩ナク内皮ナキモ又古俵入ヲ許サス

第五條

當會社ノ預リ証券ニ於テハ時々ノ査定ニ依リテ俵數石  
入及ヒ産地品位等ヲ記載スヘシト雖モ其季節ニ從ヒ凡  
ソ左ノ如ク納受授ノ間ニ於テ不足ノ外ト者做スヘ  
シ

該年収獲

翌年

同自

同自

右ハ該管

處ニシテ

Handwritten notes in red ink, likely detailing harvest records or regulations for the following year (翌年) and subsequent years (同自). The text is dense and covers the bottom half of the page.

第三條

當會社ノ預リ証券ニ於テ、必ス定規ノ印紙ヲ貼附シ又  
所有主ノ記名及ヒ發行ノ番号キモ、  
ト者做スヘシ

第四條

當會社ニ預ケ米ヲ為シ其証券ノ付ント做タル者ハ  
左ニ定ル處ニ依例ニ準シテ會社附属ノ蔵所ニ運輸スヘ  
シ

例ハ、拾石ノ預ケ米ニハ

五斗俵十レハ

貳拾俵

四斗俵十レハ

貳拾五俵

三斗俵十レハ

三拾俵

右以上ノ石數及ヒ雜穀モ之レニ準スヘシ但其米俵  
ニ於テハ立繩ノ内皮十キモ又古俵入ヲ許サス

第五條

當會社ノ預リ証券ニ於テハ時々、査定ニ依リテ俵數石  
入及ヒ產地品位等ヲ記載スヘシト虫モ其季節ニ從ヒ凡  
ソ左ノ檢査ニ納受授ノ間ニ於テ不逞ノ外ト者做スヘ  
シ

該年収獲米拾石ニ付

翌年 月ニ至ル

減石 無シ

同自 月至 月々毎ニ

全 何カ外完

同自 月至 月全

全 何カ何合完

右ハ該管内凡ソ中等以上ノ米証ニ依リ之ヲ概定スル  
處ニシテ其他ノ品位及ヒ產地年柄等ニ隨ヒ別外ノ差

大 歳 省

會社ニ預  
社ノ預  
社ニ預  
社ニ預  
社ニ預

不定規ノ印紙ヲ貼附シ又  
モテ無効ノモ

社附屬ノ蔵所ニ運輸スヘ

貳拾俵  
貳拾五俵  
三拾俵

レニ準スヘシ但其米俵  
又古俵入ヲ許サス

査定ニ依リテ俵數石  
ト虫モ其季節ニ從ヒ凡  
ト不足ノ外ト考做スヘ

蔵石 無シ

全 何カ何合宛

全 何カ何合宛

本証ニ依リテ概定スル  
地年柄等ニ隨ヒ別外ノ差

大 歳 省

米俵

社ノ預リ米ハ毎年 月 日ヲ以テ新古五替ノ期限トス

社ニ於テハ其古米ニ對シ定式ノ預リ 言書ヲ用テナルハ

刻日追ニ其季節ニ從ヒ又之ノカハ預ラナサル者都テ

モト考做スル九條ノ手續ニ依リテ之ヲ所分スヘシ

持 倉ニ依リ別段ノ約定ヲ以テ著成ノ預リ米トスル地

アルハ



違アルモ、其実査ヲ經テ之ヲ揭示スヘシ  
當會社ノ預<sup>第六條</sup>リ証券、発行ノ日ヨリ滿百五十日ヨリ以テ効  
用ノ期限トス故ニ其期ニ經過スルモノハ別段ノ書入依  
リテ尚日數三十日ヨリ乃至六日間ニ達シテ與フコトア  
ルヘシ但所有主ニ於テ古書入ノ手續ヲ怠ルキハ第九條  
ノ旨趣ニ照シ之ヲ處分スヘシ

第七條

當會社ハ、米<sup>米</sup>ニ對シ若シ金融ヲ望ムキハ之ヲ時價  
ニ見合セ凡ノ五部又ハ七部迄ノ算當ニ依リ貸與スルコ  
トアルヘシ但其金高ハ之ヲ証券面ニ記載シ賣買受授ノ間  
ニ於テ其權利ト義務トヲ併セ共ニ<sup>移</sup>スルモノト爲ス  
ヘシ

第八條

當會社ノ預リ証券ハ貸與金ノ有無ヲ論セス其期限中ニ  
テ賣買讓與シ又貸入<sup>抵</sup>トナスコト有主ノ勝手ニ任ス  
ヘシ但其貸入<sup>抵</sup>流レ込ミトナルカ又ハ之<sup>買</sup>讓  
與<sup>シ</sup>ト欲スル氏ハ双方連印ノ証券ヲ以テ記名ノ書替  
ヲ乞フヘシ若シ右ノ手續ヲナサスシテ之ヲ受授シタル  
モノハ會社ニ於テ其効ナキモノト看做スヘシ

第九條

當會社ノ預リ証券ニ於テ其期限ヲ過キ尚引取ヲナサ、  
ルモノハ之ヲ其所有主ニ通知シ十日間以上世上ノ公  
告シテ必ス三十日以内ニ<sup>糶</sup>賣<sup>附</sup>シテ之ヲ<sup>併</sup>シテ  
之レカ決算ヲナスヘシ但其殘餘金ハ本主ニ贈付シ又  
是アレハ本主ニ之ヲ貸ナシ尤モ損益ノ負担ニ<sup>列</sup>段  
ノ約定アルハ此限ニ非ス

大藏省

第十條

當會社ノ預リ証券ニ於テ特ニ別段約定ノ記入無キモノハ非常其他力托スヘカテナルノ災害ニ自リ會社其責任セサルヘシ但貸與金アルモハ之ニ向テトテ故ニ其所有主ノ都合ヲ以テ別段ノ約定ヲ要スルハ更ニ記入ノ手数ヲ請フヘシ

第十一條

當會社ノ預リ証券ニ對シ別段ノ保全ヲ約諾スルノ方法ハ首トシテ之レカ元價ヲ決定シ其預リ期限中（即チ何日何日）ニ付金萬千分ノ割合ト定メ延期日數モ亦右ニ準シ其保存料ヲ受收スヘシ

第十二條

當會社ニテ貸與金ノ利子ハ一ヶ月（即チ何日何日）朱ト定メ其

端教ハ日歩重ノ割ヲ以テ決算スヘシ但初ノヨリ三十日以内ニシテ其取引ヲナスモノニ限リ一ヶ月分ノ利子ヲ拂ハシムヘシ

第十三條

當會社ノ預リ証券ニ對シ受收スヘキ手数料等ハ貸與金又ハ別段約定ノ有無ニ拘ハラス當分ノ内左ノ限相定ム可シ

預リ証券米拾石ニ付	金	錢
記名書替料同上	金	錢
延期書入料同上 <small>（每三十日）</small>	金	錢
截出入雜費同上ニ付	金	錢
右ノ外別ニ裁數等ヲ要セサル <small>（若シ要スルハ何ノ割合ニシテ）</small>	金	錢

第十四條

當會社ノ預リ証券ヲ破損若クハ紛失シタルハ其  
旨ヲ届出ツヘシ而シテ破損ナレハ直ニ替相渡シ又  
失ナレハ三十日間以上世上ニ公告シ其期限ヲ過テ發  
覺セタルモノハ請入退任ノ証書ヲ以テ其取引ヲナシ得  
ヘシ但古等ノ手教ヲ經ルモノハ其料トシテ証券一紙ニ  
付金 錢ヲ收入スヘシ

第十五條

當會社ノ営業時間ハ每日午前第 時ヨリ午後 時マテ  
タリヘシ

但日ノ長短ニ依リテ之ヲ延縮マルコアルヘシ

第十六條

當會社ハ御國祭其他毎月何ノ日又十二月ハ 日ヨリ一

月ハ 日マテ休業タルヘシ

但定例ノ休業日ニ於テ其期限ニ充ルモノハ都テ其翌  
日ヲ以テ取引ヲナスヘシ

第十七條

當會社ノ事務規程ハ實際上若シ不都合有之節ハ取締役  
等ノ衆議ニ之ヲ官廳ニ請テ補除改正スルコトアルヘ  
シ

右ノ通取極候事

年号 月 日

株主姓名 印

